施策のねらい	鎌ケ谷市施策評価表(事後)											
おさす姿)   9へ CU 用氏が、形域で支えあい、別けのいなから生活としてよす。   本本目標   1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして   本本世典学・デーア   健康福祉部次長   政策   1 改革・改善内容 (三施策をより良く実施するための 方策)   一部   計解き、第3期地域福祉計画で飛行との事業(利   計解き、第3期地域福祉計画で飛行をの事業(利   計解き、第3期地域福祉計画で飛行をの事業(利   計解き、第3期地域福祉計画で飛行をの事業(利   計解き、第3期地域福祉計画で飛行をの事業(利   計解を   1 に反映させし、料理・製造・関係を   1 に反映させし、代表の影響を   1 に反映させた。   2 の本事業(正人) 上のして、進捗管理を実施の分か。   2 の本事業の概要	施第	きの名称	111地域で支えあう福祉社会の形成									
政策・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)			すべての市民が、地域で支えあい、助けあいながら生活しています。									
① 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策) ①前回 の評価 で掲げたの容  「現場でがについて検証・評価を受け事業に反映させているとされ、定反映して特証・評価を受け事業に反映させているとされ、定反映して第一に人類・対して、連歩管理を実施する。 「別の評価で掲げた33事業 再列をさい、注射・国評価を行い、次期計画課題・出出を含かた第4期地域福祉計画で掲げた33事業 再列をおいて、第3期地域福祉計画の第定を行う。 「おいて、第3期地域福祉計画の第定を行う。 「おいて、第3期地域福祉計画の第定を行う。 「おいて、第3期地域福祉計画の第定を行う。 「おいて、第3期地域福祉計画で掲げた83事業 推定反映して第定した第4期地域福祉計画で掲げた83事業 推定反映して第定した第4期地域福祉計画で掲げた83事業 推定反映して第一で検証・評価を受け、事業推選・進に反映させた。  「施策の目的・概要  「目的 対象 すべての市民 意図(対象をどうするのか) すべての市民が地域で支え合い、助けらいながら安全で変した生活できるようにする。 「地域で支えるが、助けらいながら安全で変した生活できるよう、地域高性の中心的な密制とかったを担当組合を記録を指述に関する各事業を推進し、地域で支え合い、助けあいながら安全でで変した生活できるよう、地域高性の心のかった。対して生活できるようにする。 「地域で支え合い、助けらいながら安全で変した生活できるよう、地域高性の中心的な密制と対して生活できるよう、地域高性の心のかった。対して生活できるよう、地域高性の心が多悪化、変帯した。を見い、連歩を生活組合などの主会が正の拡大、さらには、地域で支え合う場は大きでくる。「おいて、対しなを行っている要がある。」  「本野事業の成果」と対しては、対しなを行っている要がある。 「本福祉協議会への補助金交付、民生委員・児童委員の活動支援、避難行動薬支援者選支援制度に伴う要支援者を対象化を成、機能健康フェアの実施(令和2年度は中止)などに対しるとで、大学の施策の成果、対し地域福祉の推進・部で回る大き、地域でストランディアの実施が回る会員数 人、1,178 1,104 1,078 1,600 (3基本事業成 い 健康福祉に関する容勢メニュー数 件 45 51 51 60 (3基本事業成 い 健康福祉に関する客勢メニュー数 件 45 51 51 60 (3基本事業成 い 健康福祉に関する客勢メニュー数 件 45 51 51 60 (3基本事業成 い 健康福祉に関する客勢メニュー数 件 5 5 5 5 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	基本目標		1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして				施策担当マ	マネージャー	健康福祉部次長			
①前回     司き検表、第3期地域福祉計画で掲げた93事業(再 担合が1について検証・評価を受け事業に反映させ て掲げた内容     さらた、年4期地域福祉計画の策定を行う。		政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります				マネージ	ヤー氏名	氏名 星野 里香			
① 即回	<u>I 改革</u>	·改善内容(=	=施策をより良く	施策をより良く実施するための方策)								
②①		掲含む)についていくとともに、ことから、計画の	て検証・評価を受け事業に反映させ 令和2年度末で計画期間が終了する D評価を行い、次期計画課題抽出を			③改革·改 善内容	地域福祉計画で掲げた93事業(再掲含む)について検証・評価を受け事業に反映させていくとともに、市民や福祉関係団体等の意見聴取を行い、それらを反映して策定した第4期地域福					
②施策の概要 すべての市民が地域で支え合い、助け合いながら安全で安心して生活できるようにする。 すべての市民が地域で支え合い、助け合いながら安全で安心して生活できるよう、地域福祉の中心的な役割を担う社会福祉協議会への活動助成や、民生委員・児童委員の活動支援、さらには鉄道駅のハリアリー化など、地域福祉に関する各種事業を推進し、地域で支え合う福祉社会をつくる。	②①に 基づく 取組み 結果	おいて、第3期(再掲含む)に	地域福祉計画で掲げた93事業 ついて検証・評価を受け、事業推				る。 具体的 ム化す を見直	には、 るととも し、進持	93事業 とに、各	を73事 事業の評	業にスリ <sup>፲</sup> 価指標	
②施策の概要 すべての市民が地域で支え合い、助け合いながら安全で安心して生活できるようにする。  ② 連続 の	Ⅱ 施策の目的・概要											
②施策の概要 な役割を担う社会福祉協議会への活動助成や、民生委員・児童委員の活動支援、さらには鉄道駅のパリアリー化など、地域福祉に関する各種事業を推進し、地域で支え合う福祉社会をつくる。	①目的	対象	すべての市民									
中今後の見込み・市民意	②施策の	)概要	な役割を担う社会福祉協議会への活動助成や、民生委員・児童委員の活動支援、さらには鉄道駅の									
①令和元年度~ 2年度の施策の成果			高齢者や生活困窮者などの社会的孤立の拡大、さらには、地域福祉の担い手の高齢化など、状況の 変化に応じた対応を行っていく必要がある。									
2年度の施策の成果   難支援制度に伴う要支援者名簿の作成、福祉健康フェアの実施(令和2年度は中止)などにより地域福祉の推進が図られた。	Ⅲ 事務	事業の成果や	やコストの状況									
(2年度)   (2			難支援制度に伴う要支援者名簿の作成、福祉健康フェアの実施(令和2年度は中止)などに									
標			指標名称				単位					
1		i	福祉環境満足度(市民意識調査			)	%	12.8	_		14.0	
3基本 # # ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## #	惊	ii					人	1,178	1,104	1,078	1,600	
iii		i	ボランティア登録団体会員数				人	1,178	1,104	1,078	1,600	
The AA - V	<b>②甘★</b>					ニュー数	件	45	51	51	60	
#指標 V 地域ネットワーク組織数 組織 0 2 4 1 1	_										4	
V		iv							-		4	
<ul> <li>④施策の事業費 令和元年度決算 令和2年度決算 市民一人あたり事業費(2年度決算) 令和3年度予算 322,144 118,245 (単位:円) 1,081 円 127,012 IV 評価・検討</li> <li>①課題(目的に対す 住民一人ひとりの生活ニーズや生活課題が多様化・複雑化し、従来の福祉の仕組みでは支援が難しいケースが増えてきているため、それらのケースへの対応が課題である。</li> <li>②総合評価 3一部未達成 3総合評価 の理由 避難行動要支援者の名簿作成・協力団体への説明等、新たな助け合いの取組み等を実施した。しかし、地域の担い手の確保・育成は取り組んだものの、ボランティアの会員数は、コロナの影響による活動の中止、また、高齢化により参加人数が減少した。</li> <li>V 今後の方向性 ↑ 拡充 地域の支え合いを推進していくためには、ボランティア等の担い手を育成するとともに、支え合いに参加しやすくする仕組みを整備することが重要である。また、自然災害の発生が見込まれる時の避難行動要支援者の把握は、今後も継続して更新していく必要があり、地域の安全・安心の確保と地域福祉の向上を合わせて推進していく必要がある。</li> </ul>	11元	-									1	
事業費(千円) 322,144 118,245 (単位:円) 1,081 円 127,012 IV 評価・検討 ①課題(目的に対す 住民一人ひとりの生活ニーズや生活課題が多様化・複雑化し、従来の福祉の仕組みでは支援が難しいケースが増えてきているため、それらのケースへの対応が課題である。 ②総合評価 3一部未達成 3総合評価 の理由 が発売した。しかし、地域の担い手の確保・育成は取り組んだものの、ボランティアの会員数は、コロナの影響による活動の中止、また、高齢化により参加人数が減少した。 V 今後の方向性 1 拡充 地域の支え合いを推進していくためには、ボランティア等の担い手を育成するとともに、支え合いに参加しやすくする仕組みを整備することが重要である。また、自然災害の発生が見込まれる時の避難行動要支援者の把握は、今後も継続して更新していく必要があり、地域の安全・安心の確保と地域福祉の向上を合わせて推進していく必要がある。												
<ul> <li>Ⅳ 評価・検討         <ul> <li>①課題(目的に対する現状など)</li> <li>②総合評価</li> <li>②総合評価</li> <li>②総合評価</li> <li>②総合評価</li> <li>③総合評価の理由</li> <li>○選難行動要支援者の名簿作成・協力団体への説明等、新たな助け合いの取組み等を実施した。しかし、地域の担い手の確保・育成は取り組んだものの、ボランティアの会員数は、コロナの影響による活動の中止、また、高齢化により参加人数が減少した。</li> </ul> </li> <li>V 今後の方向性         <ul> <li>1施策の方向性</li> <li>1拡充</li> <li>地域の支え合いを推進していくためには、ボランティア等の担い手を育成するとともに、支え合いに参加しやすくする仕組みを整備することが重要である。また、自然災害の発生が見込まれる時の避難行動要支援者の把握は、今後も継続して更新していく必要があり、地域の安全・安心の確保と地域福祉の向上を合わせて推進していく必要がある。</li> </ul> </li> </ul>					_		事業費			令和3年		
①課題(目的に対する現状など) 住民一人ひとりの生活ニーズや生活課題が多様化・複雑化し、従来の福祉の仕組みでは支援が難しいケースが増えてきているため、それらのケースへの対応が課題である。  ②総合評価 3一部未達成 3総合評価の理由 避難行動要支援者の名簿作成・協力団体への説明等、新たな助け合いの取組み等を実施した。しかし、地域の担い手の確保・育成は取り組んだものの、ボランティアの会員数は、コロナの影響による活動の中止、また、高齢化により参加人数が減少した。  ▼ 今後の方向性 1 拡充 地域の支え合いを推進していくためには、ボランティア等の担い手を育成するとともに、支え合いに参加しやすくする仕組みを整備することが重要である。また、自然災害の発生が見込まれる時の避難行動要支援者の把握は、今後も継続して更新していく必要があり、地域の安全・安心の確保と地域福祉の向上を合わせて推進していく必要がある。			322,144	118,245		(単位:円)		1,081	円		127,012	
る現状など) いケースが増えてきているため、それらのケースへの対応が課題である。  ②総合評価	Ⅳ 評価	·検討										
②総合評価 3一部未達成 3総合評価 の理由 の取組み等を実施した。しかし、地域の担い手の確保・育成は取り組んだものの、ボランティアの会員数は、コロナの影響による活動の中止、また、高齢化により参加人数が減少した。  ▼ 今後の方向性 1施策の方向性												
<ul> <li>①施策の方向性</li> <li>↑拡充</li> <li>地域の支え合いを推進していくためには、ボランティア等の担い手を育成するとともに、支え合いに参加しやすくすると記方向性の説明</li> <li>②上記方向性の説明</li> <li>後も継続して更新していく必要があり、地域の安全・安心の確保と地域福祉の向上を合わせて推進していく必要がある。</li> </ul>			3一部未達成 ③総合評価 の取組み等を実施した の理由 ものの、ボランティアの		た。しかし、地域の担い手の確保・育成は取り組んだ D会員数は、コロナの影響による活動の中止、ま							
地域の支え合いを推進していくためには、ボランティア等の担い手を育成するとともに、支え合いに参加しやすくする仕組みを整備することが重要である。また、自然災害の発生が見込まれる時の避難行動要支援者の把握は、今後も継続して更新していく必要があり、地域の安全・安心の確保と地域福祉の向上を合わせて推進していく必要がある。	1 15 1											
②上記方向性の説明 後も継続して更新していく必要があり、地域の安全・安心の確保と地域福祉の向上を合わせて推進していく必要があり、地域の安全・安心の確保と地域福祉の向上を合わせて推進していく必要がある。	①施策 $\sigma$											
3特に重点化する事務事業   地域福祉に要する経費		で向性の説明	る仕組みを整備する 後も継続して更新し <sup>-</sup> ある。	ことが重要である。ま ていく必要があり、地	た、	自然災害の発生が	「見込まれ	る時の避	難行動要	要支援者の抵	児握は、今	